

# 日蓮大聖人誓願 虚空蔵菩薩大祭

# 清澄



虚空蔵菩薩に力強い修法で法樂をする

日蓮大聖人が「日本第一の智者となし給へ」と誓願し二十一日間の断食行をされ、満願の日は大聖人に「智慧の宝珠」を授けたと言われております虚空蔵菩薩。

その大祭が九月十三日に奉修されました。

当日は荘厳された摩尼殿において、午前八時より随時ご祈祷が行われ、年参の栃木県無畏講(樋口周二講元)

## 虚空蔵菩薩大祭



柳嶋法縁の各師来山

様をはじめ、たくさんの方々が、虚空蔵様から「智慧」を授けらるうと来山され、ご祈祷を受けられました。

又、午前中には池上柳嶋法縁の寺院方が三十名程来

平成23年9・10月  
合併号

発行所  
〒299-5505 千葉県鴨川市  
清澄322-1

© 清澄寺  
TEL 04 (7094) 0525 番  
FAX 04 (7094) 0527 番  
振替 00140-5-55501

印刷所  
天津 (有)ブラザー印刷  
送料共1部100円

### お知らせ

#### 10月

27日 14:00  
お会式  
27日 19:00  
信行会(唱題行)  
28日  
晓天法要

#### 11月

27日 18:30  
信行会(唱題行)

#### 12月

27日 18:30  
信行会(唱題行)  
31日 19:00  
除夜祭  
23:35 行式  
水 23:55 鐘  
除夜の鐘

山され、お開帳が祖師堂であり、一時は摩尼殿と祖師堂の両堂でお経をあげるといふ場面もございました。

平日で蒸し暑い季候でしたが、初めて参列された方等で、例年より多い参列者の中、午後二時より二宮別當を導師に、山内修法師出仕にて法要が営まれ、檀信

徒に対し祈願・回向が行なわれました。

その後、八月より就任した宮崎執事長を修法導師に、参列者に対して「智慧明瞭、家内安全や身体健全」などの御加持が修され、全国各地より申し込まれました祈願の読み上げが行なわれました。(写真左)



# 山内の諸堂改修工事相次ぐ

## 報恩殿

研修会館の隣に建立されておりますのが「報恩殿」と申します。

この度、厚木市希心会(会長 飯島一憲)様の御奉納により、電気設備・畳替え等の工事が行なわれ、内装が一新されました。



気持ちが良い新畳床

この「報恩殿」は、日蓮聖人のお師匠様でありませう、道善御坊がお祀りされております。

清澄へお参りになられましたら、綺麗になりました堂内に、是非お参り頂きたいと思えます。

## 練行堂

旭が森に向かう途中に古式豊かな建物があります。その建物が練行堂と申します。

この度、沼津市の報恩会様御奉納により、床の張替工事を行わせていただきました。

旭が森の下にありますので湿気が多く、合板より無垢材の方が良いとのことで張替をおこないました。

こちらも綺麗になりましたので、是非お参り願いたいと思えます。



新装なった内部



練行堂の朽ちた床材

# 佐々木光道執事長退任

# 新執事長に宮崎雅宣師

平成十八年、岡崎別當の代より請われて執事長をお勤め頂いておりました佐々木光道師は、この度、ご自坊の事情により七月三十一日付けをもって退任されました。

これに伴い後任の執事長に、総務執事でありました宮崎雅宣師が、八月一日付けで就任し執務に就いております。

宮崎新執事長は、勝浦・真福寺の住職で、昭和五十九年、塩田別當代より山務員として勤務。布教部・庶務部を経験し七五〇慶讃年前より執事の辞令を受け山務についておりました。



清澄寺の事は、知り尽くしておりますので、今後いろいろな面で、更なる活躍が期待されております。

佐々木前執事長は、七五〇慶讃後のお山の運営が大変厳しい状況になりつつある時期に就任され、山務をまじめ維持顕彰にご尽力されました。改めて、そのご法功に感謝を申し上げます。

ここからの記事は、前々号・前号の檀信徒様宛  
發送記事より抜粋された内容になっております。

## 清澄寺

## 運営委員会

## 開催される

七月二十八日に、清澄寺運営委員会が開催されました。

これは通常、宗務院で行われておりますが、現場を見て頂く必要もあり、当山

にて開催となりました。

委員である上村貞雄宗務

所長、大塩孝信宗会議員、

梶山寛潮総務部長、望月義

仁宗会議員、藤原円俊宗会

議員、松下憲弘宗会議員、

中臣泰斎宗会議員、金子元

彦宗務所長、三枝泰英宗務

所長、畠山慈浄学識経験者、

東孝信学識経験者の十一名

の方々は、十二時三十分に集合され、別當並びに執事長、さらに地元の塩崎望巳宗会議員より、当山の現状を説明いたしました。

その後、茅葺きで老朽化の本院や、旭が森の急傾斜地等を視察されました。委員の皆さんは、萱が腐り土台から傾いている本院を見て、何とかしなければと話されておりました。



朽ちかけた本院大玄関、工事中ではなく雨をしのぐ為の応急処置

# 立教開宗会 並 別當就退任式



私子を受けとられる二宮新別當

本年は、宗祖大聖人が始めてお題目をお唱えされ立教開宗の宣言をなされてか



ら、第七百五十九回目でしたが、別當就任式を兼ねる法要でありましたので、当山と致ししても例年とは違い、幅広い御案内と打ち合わせで準備を進めました。

更に、途中で大幅な変更になった事は、皆さんご存じのように、三月十一日の東日本大震災により、法要後の祝賀会が自粛となったことでありました。

地元の三日月ホテルを予約して日程は進めておりましたが、キャンセルさせて頂き、清澄の研修会館で食事をして頂く事に致しました。

当日は天候も良く、管内寺院・寺庭婦人会のお手伝いの皆さんは、早朝八時までに黒門脇の駐車場に集合、ワゴン車に乗り換えて研修会館に。

受付を始め、担当各部所の最終確認を行ない、来山者を迎える体制を整えました。

十一時五十分、第一鐘が鳴ると、研修会館に控えら

れていた来賓寺院、本願人、檀信徒の皆さんは祖師堂に移動。

法要が始まる前には、ご宝前中央で和讃会有志の方の和讃奉詠が奉納されました。

堂内に入りきれない出席者は境内の特説テントの中での法要参加となりました。

十二時二十五分、昇堂太鼓が響きわたると、管長内野日総猊下大導師に、副導



師は、二宮日敬新別當・上村貞雄南部宗務所長が入堂、開式となりました。



謝辞を述べる二宮別當

法要中盤で、第十二代中條前別當から内野管長猊下に弘子が奉還、続いて内野管長から第十三代二宮新別當に弘子が授与され盛大な拍手が沸き上がりました。

法要後の内野管長のお言葉では、東日本大震災の被災者にお見舞い、犠牲者には追悼のお言葉を申し述べ

られました。

続いて、渡邊照敏宗務総長、本山会を代表され、勝

浦興津妙覚寺堀水貫首猊下から中條前別當への御慰労と、二宮新別當へのお祝辞を頂き、荘厳な法要も二宮

別當・佐々木執事長の謝辞をもって閉式となりました。

その後、研修会館の道場で記念の集合写真、各部屋に分かれて祝賀の食事会となりました。

### 佐々木執事長と山務員が、東日本大震災の慰霊法要とボランティアに参加

宮城県石巻へ出向く

東日本大震災の被災地に、当山山務員が数名ボランティア出仕をされました。

参加されました。

初日は、地元から各自電車にて東京へ。東京駅で全員が合流し、新幹線で一路仙台へ。

六月六日から八日の三日間にわたり、清澄寺地元の日蓮宗千葉南部青年会主催の企画に強い賛同をされ、佐々木光道執事長を筆頭に、村田教行法務主事、小澤玄勇山務員、荻野泰裕山務員。

そして大森太郎庶務主事は自坊住所地の神奈川県主催関係から参加し、現地で一緒になるという幅広いネットワークのつながりで

お互いにビックリし会話を交わすと、宮城に慰霊に行くとの事でした。同じ目的でこのような所で会う不思議さを感じてい

るうちに仙台に到着。

駅近くでレンタカーに便乗し、石巻市日和山公園にて『大震災物故者慰霊法要』を村田教行師導師により務められました。

(奇しくも村田主事が四月から青年会長のため)



続いて石巻市門脇サツカー場(物故者土葬埋葬所)にて『慰霊法要』を営みました。

翌七日は、ボランティア団体「アムール石巻」の担



当者指示に従い、市内住宅街にて、住宅庭のヘドロとU字溝内のヘドロ撤去作業を行いました。

八日は昼過ぎまで、宮城復興支援センターにて全国より集められた支援物資の仕分け作業を致しました。今回のボランティアでは、数々の素晴らしい出会いもありました。

慰霊法要中に私達の後ろで共に手を合わせて下さった方は、親族を亡くし、辛い現状を背負いながらも一歩ずつ前へ歩まれています。作業場の近所に住む方々

は、「本当に有難う」の言葉を送って下さいました。

当初は「被災された方々の為に何か出来ることはないか、少しでも力になりたい」という思いも、「お経を上げさせていたでいてる。お手伝いをさせていたでいてる」という思いに自然と変わっていくのを感じました。

参加者一同が黙々と作業に取り組み姿勢や、終えた



あとの顔を見ますと「私だけではなく、皆もそう感じていたのでは」との確信をしております。

日蓮大聖人は、大衆の苦しみを我が苦しみとして強く受け止められ、お一人で力強く立ち上がられ、大慈悲をもって法華経の実践信

# 妙見大祭太堂にて 出開帳となる

七月二十一日・二十二日は年中行事の妙見大祭でした。

本年は大型台風六号の接近で、不安な日程となったため、参拝者の参道登山の安全を考えて、大堂での出開帳にさせて頂きました。

幸いながら台風の直撃上陸はまぬがれましたが、風雨の中での大祭になりました。

そのような天候でありましたが、地元や県内漁業関係者の皆様と県内外から多くのご参拝を頂きました。

行であるお題目の信仰をお弘めになりました。

この度は、本当にかげえのないご縁を皆様と結ばせていただき、何ものにも代え難い経験をさせて頂いたできました。

(感想文より抜粋)



# 各管区の青年会 寺子屋利用相次ぐ

日蓮宗青年会の活動として、各地区で寺子屋が開催されておりますが、清澄寺を会場に実施される管区が増えてきているようです。

次世代の子供たちが清澄を利用される事は、大変喜ばしい事です。実施された管区は、下記の通りです。



◎千葉西部青年会  
七月二十五日～二十七日  
(二泊三日)  
総勢七十七名



◎東京南部青年会  
七月二十六日～二十八日  
(二泊三日)  
総勢六十名



◎東京西部青年会  
七月二十八日～二十九日  
(一泊二日)  
総勢五十一名



◎千葉南部青年会  
八月四日～六日  
(二泊三日)  
総勢五十七名

早朝の一番開帳は二宮別當導師により厳修されました。

朝のうちは人数も少ない

状況でしたが、山務員の修法師が出仕のもと、読経法楽。

人数の多少に関係なく丁寧な法要が厳修されました。

又、二十一日はアクアラインが通行止めになってしまった関係で、二十二日に

御参拝頂いた方もおり、翌日にかけてでもお参り頂いた事に、大変感謝を申し上げます。

勝浦市の山本さんや山梨

甲州市からご来山頂きました

た明盛園(ぶどう園)経営

の窪田さん親子は「登山は

大変で無理ですが、出開帳

になり、お陰さまで妙見様

を拜することが出来ました。

と喜んでおられました。

## 談話室

昨年に負けず劣らずの酷暑が続いた今年の夏。

九月になってもその暑さは

衰える事無く、十月にな

り漸く朝夕の風が心地よい

季節となつてまいりました。

その暑い最中の七月に、

清澄寺運営委員会の会議が、始めて当山(現地)で

開催されましたが、本院の現状を見て委員全員がビックリされておりました。

又、山内では他の諸堂(報

恩殿・練行堂等)を始め、

大太鼓の皮修理・大昇り旗

も傷みの酷い状況に、やら

なければならぬ事が山積

ですが、不思議にも篤進者

が相次いで現れて大変あり

がたい事だと心に沁み入っ

ております。

六月には山務員数名が、

宮城の被災地にボランティア奉仕に出かけましたが、まだまだ復興の先は見えていない事と思えます。

清澄寺では被災された地

域の早期復興と物故者の御

供養を連日させて頂いてお

ります。

是非皆さんもご登山頂

き、物故者のご回向、被災

者の速やかなる復興祈願を

共に致したいと思えます。